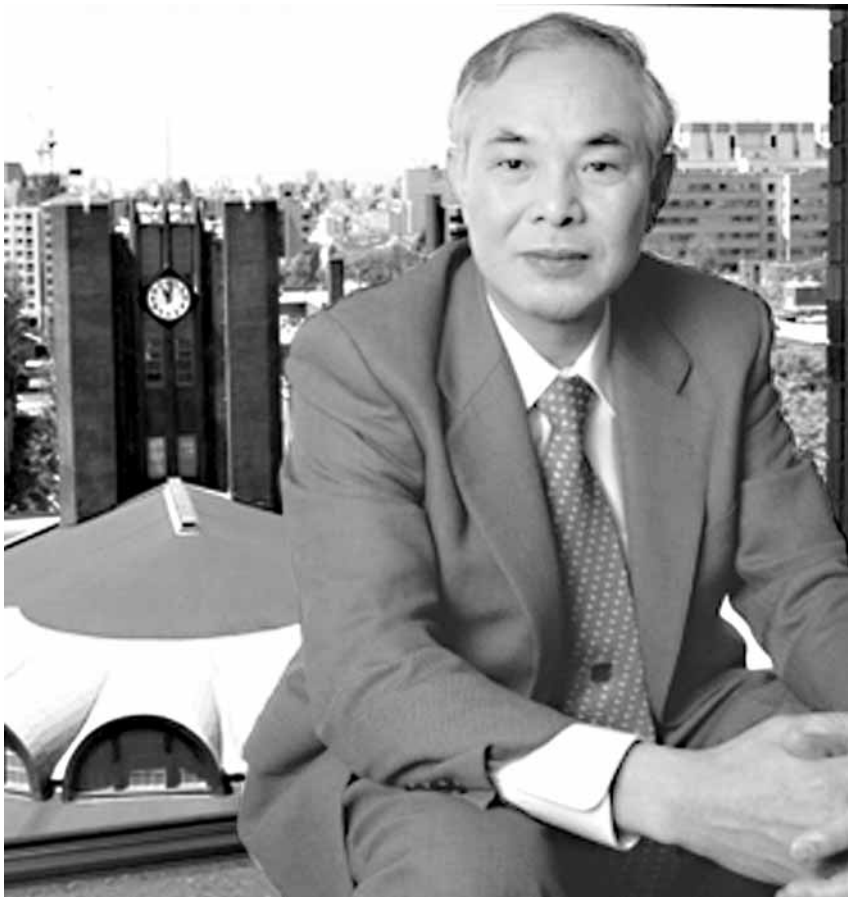
研究科長の挨拶

研究科長　岡村　定矩（天文学専攻　教授）

国立大学としての最後の１年と国立大学法人としての最初の１年に研究科長を務めるという大変希有な経験をしました。押し寄せる変革の波の中でもがいているうちにあっという間に２年の任期が終わろうとしています。教員，職員，学生の皆さんには，数多くの苦渋の選択にご理解とご協力を頂き，心から感謝しています。

世の中とは無縁で研究一筋というのが理学系の先生方の鑑とされていましたが，もはやそれでは最低限の教育研究環境すら脅かされかねない時代になりました。理学系の中で自分の組織を守る，東大の中で理学系を守る，多数の大学の中で東大を守る，という組織防衛論だけでは，今日の社会情勢のなかで展望は開けません。基礎科学，あるいはもっと一般的には，教育研究とは何か，その社会的意義と重要性を広く一般の人々に訴え，日本社会の風潮を変えて行くことが必要だと私は考えています。

理学系でも，ホームページ，公開講演会などを通じて，社会に対してさまざまな情報発信を行っています。もともと自然や科学に関心のある人々にとってこのような情報発信が有効なことはすでに確かめられています。しかし残念ながらそのような人々は社会の少数派です。いわゆる「科学オンチ」ないしは「科学なんて関心ない」という多数派の人々に，科学が面白いとは思わなくても，せめて最低限，科学の意義を理解してもらえるような工夫が必要です。

理学系研究科には，日本と世界の将来をになう優秀な学生がいます。しかもその数は決して少なくありません。学部に約 280 人，大学院修士課程には 400 人あまりが毎年入学し，一定の期間の後には社会に出て行きます。教職員と学生が基礎科学の重要性を広く社会に流布することを一生の使命の一つであると考えるようになれば，少なからぬ影響を与えることが出来ると信じています。言うまでもありませんが，そのためには，理学系の教育と研究が世界のトップレベルであり続けることが必要条件です。

退任の挨拶にはあまりふさわしくない話になってしまいましたが，研究科長の間に最も強く感じたことです。２年間いろいろとありがとうございました。